

【講演】 コロナ禍の子どもを取り巻く環境

コロナ感染は社会に大きなインパクトを与えました。家庭内の生活が増えるため身体的虐待、性的虐待、DVが増えたと考えられています。養育者の失業にともなう貧困や精神的な不安定さが増しました。家族への支援やサポートが不足し、孤立が増したと考えられています。

令和2年度の全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数は、1月14,816件(前年比+21%)、2月15,051件(+11%)、3月23,732件(+18%)と例年通り相談件数は増加していましたが、緊急事態宣言が出された4月には14,816件(+8%)、5月13,572件(-2%)と減少していきます(児童虐待相談対応件数の動向について(令和2年1月~9月分(速報値))より)。学校などの閉鎖による、家庭外の活動が不足することにより、見守りが不足し、虐待、ネグレクトが発見しにくくなったと考えられています。子どもは大人とは異なり、自宅での自らの被害をどこかに訴えたり、家庭を飛び出したりはなかなかできません。時には、それは頭痛、腹痛、食欲不振、不眠などの身体症状として現れます。幾つかの症例を提示します。

子どもを取り巻く環境は、貧困、コミュニティの弱体化、育児不安などにより、深刻化、複雑化しています。コロナ禍はその環境の脆弱さをより際立たせました。行政、教育、福祉、医療など、どこか一つの分野だけが単独で問題を解決することはできません。問題が複雑化、深刻化しているからです。様々の機関が連携しながら、子どもに優しい環境や子どもや家庭を支援できる体制を整えていく必要があります。

こうした視点から、つながりの設立契機や活動についてもお話したいと思っております。

「子どもセンターてんぽ」とは？

10代後半の子ども達の自立を支援することを目的に設立された認定 NPO 法人です。

安心して生活できる場所がない子どものための緊急避難施設である子どもシェルターてんぽ(定員男女6名)と、家庭で生活できなくなった子どもたちが共同生活を通して自立のための準備をする自立援助ホームみずきの家(定員女子6名)を運営しています。

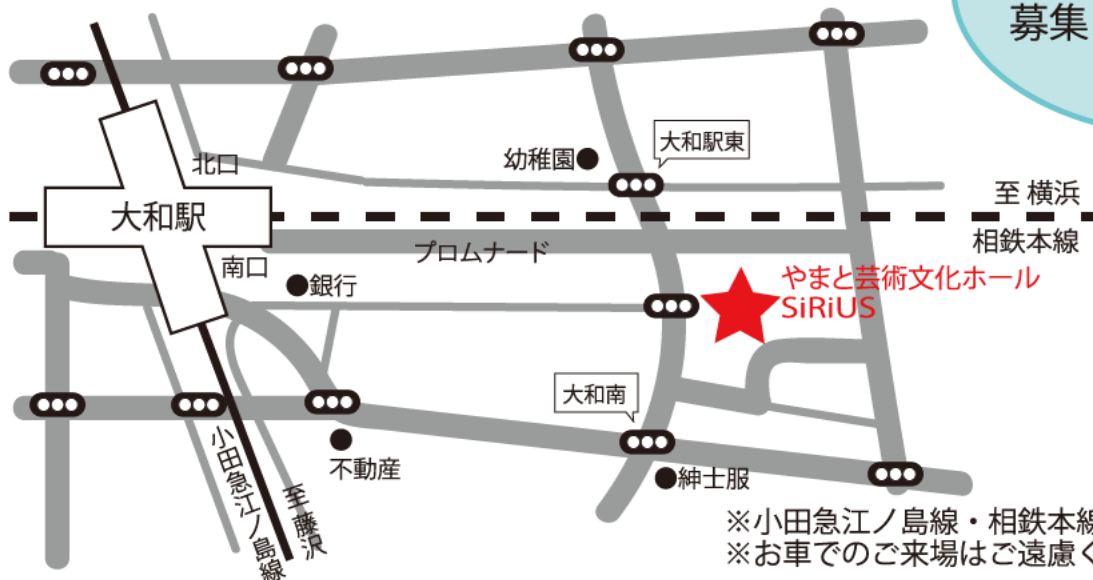
私たちは、子どもたちに安全・安心・清潔な住まいとおいしい食事を提供し、利用する子どもの人権を守り、一人ひとりの自立に向けたペースを尊重し、いつも真剣に、ねばり強く、寄り添います。

利用する子どもが望むとき(退所後も)、けっしてその子どもをひとりにはしません。

<http://www.tempo-kanagawa.org/>

※フジテレビ系列のドラマ「さくらの親子丼2」、「さくらの親子丼3」で子どもシェルターが取り上げられました。

◆会場案内◆



てんぽでは
ボランティアや寄付を
募集しています！

